

表現と鑑賞を一体的に行う図画工作科授業の創造

濱 崎 昇 平 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・奥 俊 明 [鹿児島大学教育学部附属小学校]
中 原 大 士 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・小 江 和 樹 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Creation of art education classes to enhance artistic appreciation and expression

HAMASAKI Shohei・OKU Toshiaki・NAKAHARA Daishi・OE Kazuki

キーワード：活動のテーマ、造形要素、思いやイメージ、表現と鑑賞の一体化

1. 研究の背景

これまでの研究において、「形や色などを工夫しながら、自信をもって自分の思いを表現する子ども」という子ども像を設定し、そのような子どもを育てるために、自分の思いを豊かに表現する図画工作科授業の創造を研究主題として、研究に取り組んできた。具体的には、学び合いを通して、イメージをつくりだす場を意図的に導入したり、表現と鑑賞が連続・発展的に行われるよう、造形遊びの視点から授業改善を行ったりしてきた。しかし、鑑賞活動への意欲が十分とは言えず、表現活動に重きが置かれ、鑑賞活動の価値を子どもが十分に感じられないまま授業が行われていた。そこで、表現と鑑賞が一体的に補い合い高まっていく活動となるようにさらなる授業改善が必要であると考えた。

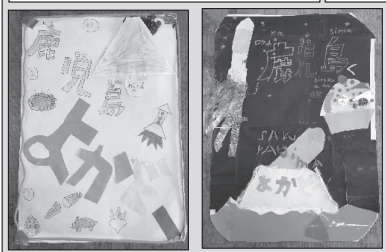
2. 研究の方向

上記のような背景を踏まえ、本研究では、表現と鑑賞が一体化した学習内容の設定や指導方法の改善を行う。具体的には、活動の原動力となる「活動のテーマ」に視点を置き、鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な活動のテーマの設定について学習内容の改善を図る。また、「思いやイメージ」と「形や色」などの造形要素に視点を置き、形や色などの多様な造形要素を見いださせ、思いやイメージとつなげる指導方法の改善を図る。そして、形や色などを工夫しながら、自信をもって自分の思いを表現する子どもの姿を具現化することを目指すこととした。

3.1. 鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な「活動のテーマ」の設定の基本的な考え方

図画工作科において、表現と鑑賞は本来一体的に補い合い高まっていく活動である。表現から鑑賞へ、あるいは鑑賞から表現へという単線的な方向ではなく、表現→鑑賞→表現、鑑賞→表現→鑑賞など様々な方向性が考えられる。例えば、思いやイメージを作品に表現する中で、自分自身の作品を鑑賞しながら思いやイメージと照らし合わせて表現したり、友達の作品や参考作品を鑑賞して見いだした造形要素を基にさらに表現したりするなど、表現と鑑賞を繰り返しながら、造形的な創造活動に取り組むといった姿である。

そこで、子ども自らが表現と鑑賞を行き来し、造形的な創造活動に取り組めるようにするために、子どもが「もっとよりよくつくるために、友達などのいろいろな作品を見てみよう」といった思いをもてるようにする必要がある。そのために、造形的な創造活動の原動力となる「活動のテーマ」や「テーマを設定するまでの導入場面」を、主体的に鑑賞しなくなったり、友達と協力して造形活動に取り組むなくなったりする魅力的なものにする必要があると考える。そのようなテーマを設定することで、切実な学びを促し、鑑賞活動に必要感をもたせることができる。

①課題把握・②課題分析	③観点の具体化	④実際
<p>【実践の課題や子どもの実態】 表現したい思いが高まらないまま、表現している。</p> <p>【分析】 何を誰に伝えるのか明確でないため、表現や鑑賞の目的が曖昧となり、造形活動に意図的に取り組むことができていない。</p>	<p>□ 統一性 本校では、外国語科の時間で留学生との交流活動があり、「鹿児島県のよさを伝える」といった目的で伝える対象を共有できる。そして、「外国の方がわかりやすい工夫がされているか」などの観点で友達と鑑賞活動ができる。</p>	<p>(変更前) 「伝えたいことがはっきりと分かるポスターをつくろう。」</p> <p>(変更後) 「留学生に鹿児島県のよさがよく伝わるポスターをつくらう。」</p> <p>□ よく伝わるための工夫するポイントを見出し鑑賞活動を設定。</p>
		<p>テーマ設定後、よく伝わるための工夫するポイントを見出す鑑賞活動を行い、「伝えたいことと周り」「文字の配置と配色」「台紙の形」「材料の工夫」といった工夫するポイントが見出された。そして、工夫するポイントを、自分の思いやイメージと関係付けて、新たな思いやイメージをもつ姿が見られた。</p>

【図1 鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な活動のテーマの設定の具体化】

その際、子どもが活動のテーマに魅力を感じることができるよう、「競争性、協同性、推理性、感動性、統一性」などを観点に、活動のテーマを具体化することが大切であると考える。

そして、鑑賞活動に必要感をもって取り組み始めた子どもは、鑑賞活動に主体的に取り組むとともに、友達と学び合いながら自分の思いやイメージに合わせて試行錯誤し、さらに豊かな思いやイメージをつくり続けていくことが期待される。

3.2. 鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な「活動のテーマ」の設定の具体例

5学年「思いをこめてハートをキャッチ」（ポスターに表現する題材）における、鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な活動のテーマの設定の一例を示す。（図1）

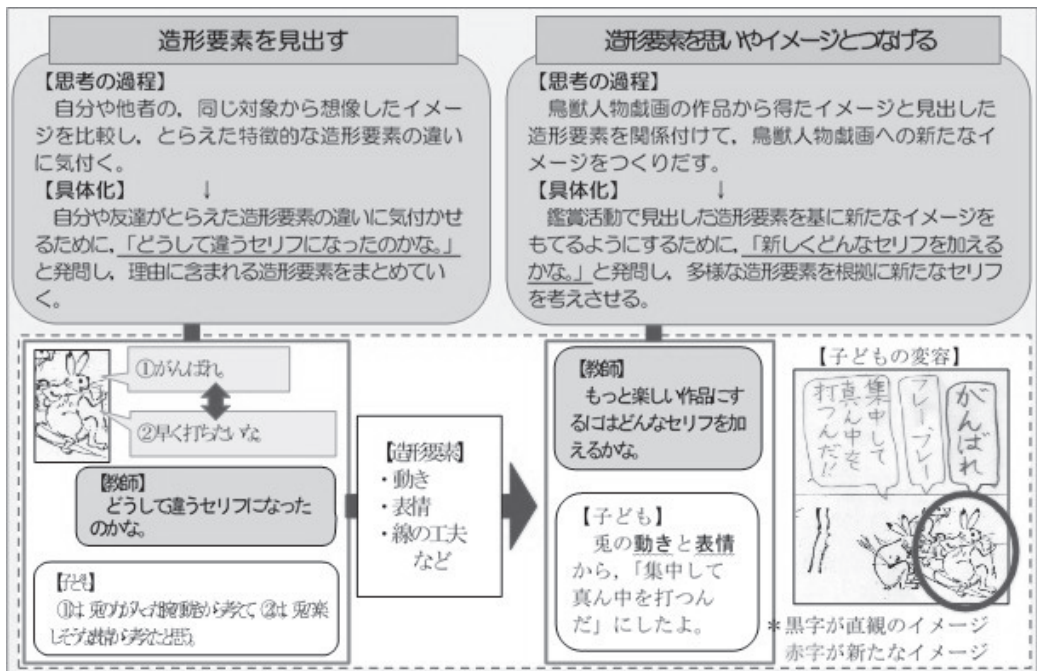
4.1. 形や色などの多様な造形要素を見いだし、思いやイメージとつなげる指導方法の基本的な考え方

図画工作科では、「形や色」や「イメージ」は、表現及び鑑賞の活動の中で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手掛かりとなる。この「形や色」などの造形要素をとらえたり、「イメージ」をもったりすることは、相互に関連し高め合う関係にあるとともに、子どもが思考する際の基盤となり指導に具体化する観点となる。

そこで、鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な「活動のテーマ」の下、豊かな思いやイメージをもって主体的に造形的な創造活動に取り組ませるために、自己の経験や感性を通してもった直感の思いやイメージと、多様な造形要素を関係付けて、新たな思いやイメージをつくりだすことができるようにする必要があると考える。

そのために、子どもの思考過程（作品や他者から得た情報を、既有の情報と比較・関係付けて、共通点や差異点から考えを深める）を想定し、形や色などの多様な造形要素を見いだしさせたり、思いやイメージへとつなげさせたりするための「教材や教具の提示の工夫」や「発問や価値付けの工夫」などの指導方法を具体化する必要がある。

このことにより、子どもが思いやイメージと形や色といった造形要素とを関係付けて、新たな思いやイメージをもったり、造形要素を基に工夫したりするような、豊かな造形的な創造活動が期待される。



【図2 形や色などの多様な造形要素を見出させ、思いやイメージとつなげる指導方法の具体化】

4.2. 形や色などの多様な造形要素を見いださせ、思いやイメージとつなげる指導方法の具体例

第5学年「つくって楽しむ ザ・絵巻物」（「鳥獣人物戯画」の作品を鑑賞する題材）における、「発問」の一例を示す。（図2）

5.1. 授業実践

第3学年「動物とわたしのぼうけん」の立体の学習を基に、授業実践を行った。本題材は、自分と動物と一緒に冒険している様子を楽しく思い浮かべながら、粘土に表現する題材である。

5.2. 実践の立場

これまでの実践における子どもの実態として、大まかな動きの表現に満足し、思いやイメージに合わせた細かい動きや表情、模様等の細部を工夫して表現する姿があまり見られなかった。そこで、鑑賞活動に必要な感をもてる魅力的な「活動のテーマ」を設定し、鑑賞活動を通して動きや細部などの造形要素を見だし、自分の思いやイメージと関係付ける発問や、鑑賞を表現に生かしたことに対する価値付けなどを行うことで、上記の課題を解決し、豊かな表現が生み出されるのではないかと考える。

5.3. 題材の目標

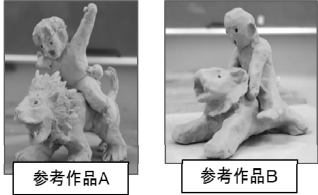
大好きな動物と一緒に冒険をしている様子を楽しく想像し、友達と話合ったり、よさを見つけたりしながら「動き」「組合せ」「細部」を観点に自分や動物を工夫し、進んで表現することができる。

5.4. テーマ設定と指導方法の工夫について

図3のように、テーマ設定のプロセスの基、具体化した。

①課題把握・②課題分析	③ 観点の具体化	④ 実際
<p>【実践の課題や子どもの実態】 自分の思いやイメージに合った細かい動きや細部などの工夫が見られない。</p> <p>【分析】 大まかな動きの工夫に満足し、細部をこだわってつくるよさを感じていない。または、細部までこだわるよさを感じていても、表現する意欲が十分でない。</p>	<p>□ 感動性 細部までこだわってつくった参考作品を鑑賞し、感動を味わい、こだわってつくるよさを実感する活動を設定する。</p>	<p>「テーマ」 2つの作品を比べて、イメージが伝わる表現のこつを探ろう。</p> <p>大まかな動きをつくり終えた後（第2時）に、工夫が足りない作品と、細部まで工夫している作品を比較して鑑賞させ、感じたことを交流し、「動き」「細部」といった造形要素を見出す活動を設定する。 ここで見出した造形要素を基に友達や自分の表現を鑑賞したり、自分の表現に生かしたりさせていきたい。</p>

【図3 テーマ設定のプロセス】

思考の過程	具体化
<ul style="list-style-type: none"> • どちらがより思いやイメージが伝わる作品かといった観点で二つの参考作品を比較し「動き」や「細部」といった造形要素を見出す。 • 見出した造形要素を基に自分や友達の作品を鑑賞したり、自分の思いやイメージと造形要素を関係付けたりして新たなイメージをつくりだす。 	<p>教材や教具の工夫 「ライオンと一緒に宝を探しに行く様子」というイメージでつくった二つの参考作品</p> <p>参考作品A ひねり出しやつまみ出しを生かしながら、表情や持ち物などの細部や動きを表現している。</p> <p>参考作品B 大まかな動きの工夫のみで表現している。</p>  <p>発問や板書の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> • 参考作品Aの方がイメージがよく伝わる理由を考えさせ、「動き」「細部」を見出させる発問 • 友達の表現を鑑賞し、見付けたよさを自分の表現に生かす姿に対して行う価値付け • 思いやイメージと「動き」「細部」を関係付けて表現方法を考えさせる発問や板書

【図4 指導方法の工夫】

また、図4のように、教具や、発問、板書の工夫を具体化した。

以上のことから、「2つの作品を比べて、思いやイメージが伝わる表現のこつを探ろう」というテーマの下、参考作品や友達の作品を鑑賞したり、鑑賞したことを表現に生かしたりする活動において、「動き」や「細部」といった工夫するポイントを見だし、自分の思いやイメージに合わせて表現方法を考えさせる指導方法を工夫する。

5.5. 本時の実際

本時の板書

導入

参考作品を鑑賞

工夫するポイントを見出させる発問

T : A と B ではどちらが冒険している感じがするかな。
 C1 : A です。見ていてなんだかワクワクするよ。
 T : どうしてそのように思ったのかな。
 C2 : 腕を上げているので「宝を探しに行くぞ。」という気持ちが伝わるから。気合いが入っているから。
 C3 : 口を大きく開けているところからも、「冒険に行こう。」という様子が伝わるから。
 T : ということは、腕などの「動き」や表情などの「細かいところ」を工夫するといいなだね。

A
 気付いたことを工夫するポイントとして板書にまとめる。

工夫するポイントを基に自分の表現の見直しを行い、再度表現の工夫を行わせる。

展開

友達の作品を鑑賞

自分の思いやイメージに合わせて工夫できそうなところはないかを考えさせる発問

教師による子どもの作品紹介

鑑賞を表現に生かしたことを価値付け

T : 自分の作品に生かせそうなところはあったかな。
 C1 : 足の曲がり具合が生かせそうだなと思いました。
 T : どうしてそこが生かせそうだなと思ったのかな。
 C2 : 自分がつくっている馬には動きがないけど、友達の動物の足の曲がり具合が左右で違って、本当に走っているみたいだからです。
 T : いいところに気付いたね。

T : A さん、どこを工夫したかみんなに教えて。
 C1 : B 君が人間と動物の表情を工夫していたから私も工夫しました。楽しんで冒険している様子が表れてきました。
 T : 友達のを自分の表現に生かすことで、もっとよくなったんだね。

終末

子どもの表現

ゴリラの大きな動きのみの表現が・・・

毛の模様を工夫して、イメージに合った作品になった。

活動の振り返り

T : どうして、イメージ通りの作品になったのかな。
 C1 : 友達の工夫を生かしたから。
 C2 : 工夫するポイントを生かしたから。
 T : 見つけたよさを生かすことで、よりよくなるんだね。

B
 鑑賞を表現に生かしたことを価値付け、板書する。

【図5 授業実践】

5.6. 結果と考察

参考作品を鑑賞し、造形要素を見いだす活動を設定したり、思いやイメージと「動き」や「細部」といった造形要素を関係付ける指導方法を工夫したりすることで、子どもたちは鑑賞活動のよさを実感し、進んで鑑賞活動を行い、自分の思いやイメージに合わせて「動き」や「細部」を工夫し続ける姿が見られた。

6.1. 研究の成果

鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な「活動のテーマ」の設定

- ・ 「活動のテーマ」を子どもの実態に合わせた魅力的なテーマにしたことにより、子どもが意欲的に造形的な創造活動を行う学習指導ができ、つくりだす喜びを味わいながら表現したり鑑賞したりする姿が見られた。
- ・ 「活動のテーマ」を具体化する観点が明確になったことにより、鑑賞活動の目的を明確にした学習指導ができ、主体的に鑑賞活動に取り組む姿が見られた。

形や色などの多様な造形要素を見いださせ、思いやイメージとつなげる指導方法

- ・ 「思いやイメージ」と「形や色」を基盤にした指導方法の基本的な考え方や具体化の過程を明らかにしたことにより、思いやイメージと多様な造形要素を基に、子どもが思考する過程を明確にした学習指導ができ、教材・教具や発問等の指導方法が子どもの思考に沿ったものとなった。
- ・ 指導方法を具体化する際に、子どもの思考の過程を想定したことにより、子どもの思考の過程を価値付けたり可視化して整理したりする学習指導ができ、子どもが鑑賞したことの価値を実感する姿が見られた。
- ・ 思いやイメージと形や色をつなげる指導方法を明らかにしたことにより、他の題材においても、「思いやイメージ」と「形や色」を基盤にした学習指導ができ、様々な題材で思いやイメージと造形要素を関係付けながら思考する姿が見られた。

6.2. 研究の課題

鑑賞活動に必要感をもてる魅力的な「活動のテーマ」の設定や形や色などの多様な造形要素を見いださせ、思いやイメージとつなげる指導方法の基本的考え方を明らかにすることができた。その際、主体的に鑑賞活動に取り組む姿が見られたり、多様な造形要素を見いだす姿が見られたりした。

そこで、発達の段階や領域等を視点に学習内容や指導方法を工夫することで、個に応じた学習指導ができ、より豊かに表現する子どもの育成を目指せると考える。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成25～28年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、図画工作科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

7. 主な参考文献

- 新井哲夫・天形健・山口喜雄 編著 「小学校図画工作科の指導」(建帛社 平成22年)
- 上野行一「私の中の自由な美術」(光村図書 平成23年)
- 鹿児島大学教育学部附属小学校「個の確立を目指す授業の創造」(平成25年～27年)
- 宮脇理 監修「新版美術教育の基礎知識」(建帛社 平成9年)
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説図画工作科編」(日本文教出版 平成20年)
- 若元澄男 編集「図画工作・美術科 重要用語300の基礎知識」(明治図書 平成18年)